

アイドル「解散」で可視化される論理と感情

— ネットニュースの計量テキスト分析 —

田川隆博

(中部大学人間力創成総合教育センター)

1. はじめに

2000年代に入り、非常に多くのアイドルが誕生し、いまでも誕生し続けている。その一方で、解散、全員卒業、活動休止といったニュースもまた多くなっている。とりわけここ数年はメジャーシーンで活動していたアイドルグループの解散のニュースが入ってくる。理由はさまざまあるだろう。アイドルとしての活動に十分な満足を得たもの、アイドル活動にいったん区切りをつけ新しい道を目指すもの、グループの不和で解散になるもの、あるメンバーの卒業に伴って解散になるもの。本研究では、アイドルの「解散」に焦点をあて、その「解散」は音楽ニュースサイトでどう伝えられたかを計量テキスト分析によって明らかにしようとするものである。

本研究が問うのは、「解散」が語りを生むこと、そしてその言説空間の内に、アイドルとファンをつなぐ論理や感情が表出されるのではないかという点である。したがって、アイドルの「解散」の是非については問わない。また、「解散」はアイドルにとって不可避なのか存続が当然なのかという論点についても問わない。「解散」と表記するのは、全員卒業、無期限活動休止など、解散という表現を使わないが実質的にそのグループの終焉を伴うものを含めているからである。

これまで、芸能文化についての研究は多くなされているが、ファン研究の厚みに比べると、演者が何をどう語ったかという観点の研究はそれほど多くない。本研究が着目するのは、そうした演者の視点からの論理や感情である。

その際に、場として選ぶのは、アイドルの「解散」である。「解散」は解散 LIVE を伴うことが多く、そこでアイドルからファンに向けて最後の言葉が語られる。その最後の言葉をどう選ぶか、何を話すかというのはアイドルにとって活動を終える上で重要な儀式になると思われる。つまり、アイドルとファンをつなぐ論理や感情が析出しやすい場だと考える。そうしたアイドル視点からの言説を、ネットニュースから見出そうというのが本研究の目的である。

2017年だけでも、非常に多くのアイドルが解散や活動休止を発表した。さやわか(2015)も指摘するように、2010年代の前半、メディアでよく使われた言葉が「アイドル戦国時代」である。しかし、ファンたちは必ずしも喜んで使うことはなかったとさやわか(2015)は指摘する¹。ただし、アイドル戦国時代という言葉はAKBが切り拓いたアイドルの文化あるいは市場に多くのアイドルが誕生したということを意味している。そして、それから数年が過ぎ、活動を終焉させるグループもまた増えているということだ。アイドル「解散」がここ数年大きく取り上げられるようになってきたのも、こうしたアイドル戦国時代と表裏一体の関係となっているのだろう。

例えば、東京アイドルフェスティバルに出場したアイドルについて、見てみよう。東京アイドルフェスティバル(TIF)は2010年にスタートし、いまや総来場者8万人を超える規模に発展した最大のアイドルフェスティバルである。その出場アイドルについて、現在までどのくらい解散または活動休止したのかを表1に示す。

¹ さやわか(2015)、『僕たちとアイドルの時代』星海社新書、192頁。

遡るほど「解散」したアイドルが増えているが、2014年に出演したアイドルでもすでに30%を超えるアイドルが「解散」しており、第1回に出演したアイドルでは半数以上にあたる60%が「解散」している。

アイドル解散や卒業でファンからの大量の言説が生み出されるのは、アイロニカルな没入という概念から説明できるだろう。大澤（2008）によれば、アイロニカルな没入とは、「意識的な知と行動的で無意識的な信との捩れによって定義できる態度」であり、「それが幻想＝虚構に過ぎないことをよく知っているのだが、それでも、不動の『現実』であるかのように振る舞うのである」としている²。それは、虚構と分かっている、その虚構に感情移入するオタクたちの態度を意味している。「現実と虚構の区別がつかない」のではなく「現実と虚構の区別を認識した上で」没入するのである。アイドルはもとより配偶者や恋人ではない。それはファンもよく分かっている、それでもなおアイドルに没入する。没入であるがゆえに、アイドルの「解散」はその没入対象を失い、大きな喪失感をもたらす。その喪失感を言葉にしようと生まれる言説は、アイロニカルな没入の持つアイロニーがもっとも劇的に現れると言えるのではないか。

以下では、解散に伴ってあふれる言説についてネットニュースに取り上げられた解散記事を元に分析する。本研究がネットニュースを分析するのは次の理由による。アイドルの言説を分析するなら、アイドル自身の語りを分析することが望ましい。しかし、すでに解散したアイドルについてはブログやツイッターが閉鎖されていることも多い。また、どのアイドルの言説を分析するか、データ取得に客観性を担保することも難しい。したがって、ネットニュースに取り上げられた「解散」を扱うことで、一定の客観性を担保することが狙いである。さらに、近年、非常に多くのアイドル「解散」がネットニュースに取り上げられるようになってきていることも理由として挙げられる。

以下では、解散に伴ってあふれる言説についてネットニュースに取り上げられた解散記事を元に分析する。本研究がネットニュースを分析するのは次の理由による。アイドルの言説を分析するなら、アイドル自身の語りを分析することが望ましい。しかし、すでに解散したアイドルについてはブログやツイッターが閉鎖されていることも多い。また、どのアイドルの言説を分析するか、データ取得に客観性を担保することも難しい。したがって、ネットニュースに取り上げられた「解散」を扱うことで、一定の客観性を担保することが狙いである。さらに、近年、非常に多くのアイドル「解散」がネットニュースに取り上げられるようになってきていることも理由として挙げられる。

2. 方法

今回は多数ある音楽ニュースサイトの内、音楽ナタリーを選んで記事を収集した。音楽ニュースのサイトには、BARKS、Real Sound、アールオーロック、ミュージックヴォイス、ORICON STYLE 他、多数のサイトがある。それぞれ得意とする分野や記事の表現方法に特色がある。その中で、音楽ナタリーを選択した理由は、第一にサイト開設が2007年2月と10年以上の歴史を持ち、現在のアイドルシーンが活況を示す期間をほぼ含んでいること、第二にアイドルの解散LIVEのレポートを多く配信していることにある。音楽ナタリーは、ライブレポートに特徴があるサイトだが、アイドルの解散LIVEについては、近年よく取り上げて記事にしている。実際に現地でLIVEを体験し、記者の視点でレポートするとともに、アイドルが実際に語った内容も大きく引用している。それによって、非常に臨場感のある記事になっている。

(1) データの取得

音楽ニュースのナタリーで、アイドルの解散を扱っている記事を収集した。データ取得の具体的な手続きは以下のとおりである。

①「アイドル 解散」でキーワード検索を行うと、関係のない記事が大量にヒットするため、この方法で

表1 TIF出場アイドルの解散・休止割合

	出演数	解散・休止等	割合
2010	45	27	60.0%
2011	57	29	50.9%
2012	111	44	39.6%
2013	111	45	40.5%
2014	138	49	35.5%
2015	154	44	28.6%
2016	234	38	16.2%
2017	223	16	7.2%

注1：2018年2月28日現在

注2：解散発表・活動休止発表も含む

² 大澤真幸 2008、『不可能性の時代』岩波新書、105頁。

は行わない。

- ②それぞれの記事にはタグ（キーワード）がついており、「休止解散」というタグで検索した。
- ③音楽ニュースである性質上、さまざまな音楽ジャンルのグループによる休止解散記事がヒットする。そこから一件ずつ記事を調べていった。
- ④記事の取り上げる対象がアイドルかどうかの判定は、記事内にアイドルと書いてあるかどうか、または記事に扱われているグループが、公式 HP やツイッター、ブログ等で「アイドル」と名乗っていることを基準にした。なお今回は女性アイドルのみ取り上げる。
- ⑤女性アイドルの「休止解散」タグのついている記事のうち、個別メンバー1人の活動休止または卒業記事については除外した。
- ⑥「休止解散」タグのついている記事は、すべてが「解散」の記事ではない。例えば、2016年12月19日の記事「LinQ が6月に現体制を解体、新プロジェクトを発足」については、記事内に「解散」や「活動休止」といった言葉はない。しかし、「休止解散」のタグがついているアイドルの記事として、そのままデータとして採用することとした。
- ⑦このようにして、「休止解散」タグのついているアイドルの記事は、2018年2月28日現在で100件あった。
- ⑧このタグのついた最初の記事は2014年7月のあるアイドルグループ解散の記事だった。

(2) データの分析

計量テキスト分析には KHCoder を使用した。計量テキスト分析の利点としては、個別の解散理由に立ち入ること無く、計量的に分析できる。それによって、むしろ「解散」に伴ってどういう言説が立ち現れるのか、そこにどういう論理や感情が見られるのか可視化し、分析することができる。

2014年6件、2015年33件、2016年18件、2017年39件、2018年4件合計で100件の記事数であり、記事に記載されているアイドルは79組であった。

3. 結果と考察

(1) 頻出語分析

記事でどのような言葉が多く使われるかを表したのが表2である。表2を見ると「解散」は6番目となっており、203回登場している。「月」「年」という日付を表す言葉を除けば、「ライブ」「活動」「メンバー」「解散」「発表」という語が上位に来ており、アイドル活動や解散を表す言葉が多く使われる。「ライブ」が306回登場していることから、「解散」に合わせたライブ、あるいはそれまでのアイドル活動におけるライブへの言及がなされていると見ると、アイドルの中心にライブがあることがここから分かる。

「本当に」という語が上位に来ている。「本当に」については、どんな言葉とともに語られるのか、次節でさらに分析したい。

16番目に「ありがとう」という語があり、83回登場している。「感謝」という言葉も上位に来ていることから、こうした感謝を表す言葉が多くアイドルの気持ちとして表現されていると言って良いだろう。

「メンバー」と「ファン」はアイドル活動に関連する人についての語で上位に来ているが、「スタッフ」は25回の言及にとどまっている。この、「メンバー」と「ファン」についても、どのような言葉とともに用いられるか検討してみたい。

一方、「解散」はアイドルグループとファンの別れを意味するが、「さようなら」「さよなら」「バイバイ」「別れる」などを強制抽出しても、上位150語に現れなかった。解散 LIVE はファンに直接言葉を伝える最後の機会だが、「別れる」という動詞、あるいは「さようなら」や「バイバイ」と言った別れのあいさつ

表2 抽出語上位150

	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
の言葉が上位に来ない。	月	461	コンサート	34	現在	18
もちろんネットニュース	ライブ	306	サイト	33	言葉	18
だから、記者が書いた記	活動	252	涙	31	考える	18
事であり、ブログやツイ	メンバー	234	デビュー	30	今日	18
ッターの分析をすると当	年	216	パフォーマンス	30	入る	18
然違った結果になりうる。	解散	203	体制	30	ファイナル	17
ただ、音楽ナタリーのニ	グループ	136	ソロ	29	フロア	17
ュースはアイドルの言葉	発表	127	今年	29	リーダー	17
を直接引用する記事也多	思う	119	時間	29	夏	17
いことから、もしアイド	行う	108	前	29	思い出	17
ルがそう語ったなら、ど	ラスト	102	アナウンス	28	心	17
こかで記事に書かれてい	東京	102	伝える	28	声	17
ると思われる。アイドル	最後	99	道	27	発売	17
はあまり別れの言葉を言	卒業	88	決定	26	忘れる	17
わないのではないか。	アイドル	84	受ける	26	さいたま	16
「涙」は 31 回現れる	ありがとう	83	スタッフ	25	コール	16
一方で、「笑顔」も 23 回	ファン	81	収録	25	スーパー	16
現れていた。泣くことと	本当に	79	続ける	25	メッセージ	16
笑うことが、「解散」にお	休止	78	予定	25	衣装	16
いて現れる表情だという	開催	68	理由	25	迎える	16
ことだろう。	公演	65	楽曲	24	支える	16
	ステージ	62	言う	24	実施	16
	ワンマン	59	語る	24	収める	16
	皆さん	59	模様	24	進む	16
	コメント	56	見る	23	説明	16
	今	56	終了	23	明らか	16
	ユニット	53	笑顔	23	オーディション	15
	それぞれ	52	アンコール	22	ホール	15
(2) ともに使われる言葉	感謝	52	スタート	22	開始	15
「本当に」という言葉は	シングル	50	全員	22	楽しむ	15
どんな言葉とともに用い	年間	49	アリーナ	21	経験	15
られているのか。それを	自分	47	チケット	21	向かう	15
示したのが次の表 3 であ	応援	46	歌	21	今回	15
る。	気持ち	44	楽しい	21	事務所	15
	結成	44	好き	21	終える	15
	歌う	43	登場	21	所属	15
表 3 を見ると明らかな	たくさん	42	報告	21	詳細	15
ことは、「本当に」という	イベント	41	明日	21	届ける	15
語は、「ありがとう」とい	ツアー	41	幸せ	20	話し合う	15
う言葉とセットで使われ	夢	41	思い	20	オーディエンス	14
ることが多く、38 回共起	大好き	40	述べる	20	ダンス	14
表現として抽出された。	披露	40	人	20	ナンバー	14
また、「本当に」という語	本日	39	ほか	19	一緒	14
は「感謝」とともに使わ	リリース	37	頑張る	19	芸能	14
れる傾向も高く 17 回、	映像	36	結果	19	向ける	14
「大好き」は 14 回共起	今後	36	終わる	19	歳	14
表現として出現している。	アルバム	35	出演	19	新宿	14
	会場	35	その後	18	送る	14
	曲	35	プロジェクト	18	党员	14
	オフィシャル	34	歌唱	18	配信	14

表3 「本当に」とともに用いられる語

抽出語	全体	共起	Jaccard
ありがとう	67 (0.111)	38 (0.655)	0.437
たくさん	32 (0.053)	19 (0.328)	0.268
感謝	41 (0.068)	17 (0.293)	0.207
今	50 (0.083)	18 (0.310)	0.200
大好き	33 (0.054)	14 (0.241)	0.182
思う	80 (0.132)	21 (0.362)	0.180
ファン	68 (0.112)	19 (0.328)	0.178
応援	43 (0.071)	15 (0.259)	0.174
忘れる	14 (0.023)	10 (0.172)	0.161
伝える	24 (0.040)	11 (0.190)	0.155
年間	34 (0.056)	12 (0.207)	0.150
気持ち	37 (0.061)	12 (0.207)	0.145
幸せ	15 (0.025)	9 (0.155)	0.141
皆さん	41 (0.068)	12 (0.207)	0.138
自分	31 (0.051)	10 (0.172)	0.127
見る	18 (0.030)	8 (0.138)	0.118
言う	21 (0.035)	8 (0.138)	0.113
最後	75 (0.124)	13 (0.224)	0.108
好き	16 (0.026)	7 (0.121)	0.105
終わる	17 (0.028)	7 (0.121)	0.103

表4 「メンバー」とともに用いられる語

抽出語	全体	共起	Jaccard
活動	159 (0.262)	61 (0.396)	0.242
ライブ	189 (0.312)	66 (0.429)	0.238
グループ	104 (0.172)	48 (0.312)	0.229
それぞれ	44 (0.073)	32 (0.208)	0.193
ファン	68 (0.112)	34 (0.221)	0.181
行う	98 (0.162)	38 (0.247)	0.178
最後	75 (0.124)	34 (0.221)	0.174
思う	80 (0.132)	34 (0.221)	0.170
ステージ	47 (0.078)	29 (0.188)	0.169
コメント	53 (0.087)	28 (0.182)	0.156
感謝	41 (0.068)	26 (0.169)	0.154
アイドル	64 (0.106)	29 (0.188)	0.153
卒業	52 (0.086)	27 (0.175)	0.151
解散	123 (0.203)	35 (0.227)	0.145
年	87 (0.144)	30 (0.195)	0.142
披露	37 (0.061)	23 (0.149)	0.137
曲	25 (0.041)	21 (0.136)	0.133
パフォーマンス	30 (0.050)	21 (0.136)	0.129
ラスト	69 (0.114)	25 (0.162)	0.126
発表	104 (0.172)	28 (0.182)	0.122

「メンバー」という言葉とともに使われる言葉を表4に示す。

「メンバー」とともに用いられる語は、「活動」「ライブ」がもっとも多く使われていることから、先にも検討したようにやはりアイドルの中心にそれらがあることが読み取れる。「それぞれ」については、「解散」や「解散」後への各メンバーの言及に関連しているとみられる。

同様に、「ファン」とともに用いられる語を整理したのが表5である。「ファン」とともに用いられる語

表5 「ファン」とともに用いられる語

抽出語	全体	共起	Jaccard
感謝	41 (0.068)	21 (0.309)	0.239
最後	75 (0.124)	24 (0.353)	0.202
メンバー	154 (0.254)	34 (0.500)	0.181
本当に	58 (0.096)	19 (0.279)	0.178
気持ち	37 (0.061)	15 (0.221)	0.167
思う	80 (0.132)	21 (0.309)	0.165
ありがとう	67 (0.111)	18 (0.265)	0.154
会場	34 (0.056)	13 (0.191)	0.146
伝える	24 (0.040)	11 (0.162)	0.136
皆さん	41 (0.068)	13 (0.191)	0.135
今	50 (0.083)	14 (0.206)	0.135
人	17 (0.028)	10 (0.147)	0.133
応援	43 (0.071)	13 (0.191)	0.133
述べる	19 (0.031)	10 (0.147)	0.130
笑顔	19 (0.031)	10 (0.147)	0.130
活動	159 (0.262)	26 (0.382)	0.129
行う	98 (0.162)	18 (0.265)	0.122
年間	34 (0.056)	11 (0.162)	0.121
曲	25 (0.041)	10 (0.147)	0.121
前	25 (0.041)	10 (0.147)	0.121

いか。ふさわしい言葉が選ばれ、ふさわしくない言葉は選ばれない。別れの言葉の代わりにファンに対して発せられるのは、「ありがとう」である。「本当の気持ち」であり、「ふさわしい」言葉として選ばれたと言えるだろう。

多くのアイドルが「解散」で「本当に」という強める言葉を語るということは、「解散」の場が、アイドルの「本音」を語る儀礼的空間になっていると言えるのではないか。言い換えれば、「解散」の場では「本当の気持ち」を伝えるべきであり、実際に「本当の気持ち」を伝えようとしているのではないだろうか。そして、その気持ちはファンへの「感謝」という形で表出されることが多い。

「解散」で可視化される感情とは、感謝の気持ちや好きという気持ちである。こういった言葉は LIVE や SNS 等を通じてファンに普段から伝えられているだろう。それが、最後に「本当に」そうだと伝えられる。

そして、可視化される論理とは、表出すべき言葉とそうでない言葉があるということであり、「本当の気持ち」を伝えるべき場として「解散」LIVE は立ち現れる。

4. まとめと課題

以上、ここまでアイドル「解散」によって可視化される論理と感情について見てきた。「解散」はアイドルにとってもファンにとっても大きな出来事であり、アイドルにとってファンが、ファンにとってアイドルがかけがえのない存在であればあるほど、そこに語りが生まれ、その語りのうちにさまざまな感情が込められる。そして、語るべき内容が表出し、語るべきでない内容は表出されない。

テキストデータの取得にどう客観性を担保するかは課題である。今回はネットニュースというフィルターを通して分析したが、アイドルの語りそのものを分析する手法については検討していく必要があるだろう。時間をかけてテキストを取得するのであれば、定点観測のような手法も考えられる。たとえば毎月 1 日のある時刻と決めて、その時刻にツイートを取得するという方法である。

今後の課題としては、まず、さらなる分析を進めること。また、他のニュースサイトでも分析をしてみたいと考えている。アイドル「卒業」の計量テキスト分析を行ってみたいが、先にも述べたようにデータ取得に客観性をどう確保するかが課題と言える。卒業理由としての仮説は、①新しい夢の追求、②生活変化（進学・就職）、③家庭の事情、④病気・けが等、という理由をいまのところ考えている。もっともそれは外に出せる公的な理由であって、アイドルとしての行き詰まり、人間関係の悩み、運営やメンバーとの考え方のずれなど、外に出せないか出しにくい理由は多様にありえるだろう。

【文献】

大澤真幸 2008, 『不可能性の時代』岩波新書。

さやわか 2015, 『僕たちとアイドルの時代』星海社新書。

樋口耕一 2014, 『社会調査のための計量テキスト分析-内容分析の継承と発展を目指して-』ナカニシヤ出版。